

新宮山彦ぐるーぷ第2295回

## 行仙宿整備とモノレールエンジン点検

◇実施日 5月30日(木) 晴

◇参加者 梶野照雄 1名

5月26日にモノレールのエンジン不調で、歩いて行仙宿まで2往復する羽目になった。バタバタした中で下山したので行仙宿の様子も点検する必要があり、またモノレールのエンジン不調もなんとか解決できないかと行仙宿に向かった。



登山口に着く フィルターケースを外す こわごわ登る

26日帰宅してからネットで「ディーゼルエンジンのエンスト」を検索してみた。ディーゼルエンジンのエンストは稀だそうだが、エンストの原因の多くは、燃料が十分にシリンダーに届いていないこ

とらしい。つまり燃料系のどこかに障害があり、燃料タンクから噴射口にいく燃料が不足して、エンジンはかかるが、負荷がかかるとトルク不足でエンジンが止まる、と言う構図だ。モノレールの症状とびつたり当てはまる。要りそうなスパナやドライバーなどを車に積んでいった。



発電機がむき出しに シートが飛ばされていた 幟を干す

午前10時に登山口着。モノレールのシートを外し燃料タンクからのホースを観察する。タンクからフィルターに2本のパイプ、もう一本がエンジンにつながっている。2本の内太い方がフィルターに燃料を送り、細い方はリザーブと思われる。フィルターは林道側ではなく斜面側にあり、水路には水が溜まっていて作業がやりにくい。ネジ2本を外してフィルターを取ることができたが中のフィルターエレメントの取り出し方が判らない。燃料タンクとフィルターの間にコックがないので、このまま取り外すとタンクの燃料が全部流れてしまう。どうしたものかとあちこち触っていると、フィルター

ケースの底にドレインボルトらしいものを見つけた。これを緩めたらフィルター内にたまっている物が燃料と一緒に流れ出すと考え、ボルトを緩め最終的に外してみた。燃料が一気に流れ出し側溝の水に油膜ができた。3秒ほど流してボルトを締め直した。果たしてこれでエンストしなくなったのか。恐る恐るエンジンスタートして登り始める。エンジン音は一定していて無難に登っている。いつ止まってもいいようにギヤレバーに手を掛けたままで登った。旧終点までの一番急な斜面を登り切り、第2ベンチ付近の比較的緩やかなところも過ぎた。ここから伐採地を過ぎるまでが急斜面なのでちよつと心配しながら進む。エンジン音は変化がなく無事に終点に到着した。



トイレットペーパー焼却

電圧チェック

チェーンソーを掃除

発電機に被せてあったシートが風で飛ばされていく。すぐに回収できる位置にあったので、帰りに拾うことにした。いつエンジンが止まるかとヒヤヒヤしながらの乗車だった。行仙宿に着き、お堂から

幟を出して風に当てる。管理棟と倉庫、発電機室の戸を開け内部を確認する。お昼前だったのでお湯を沸かして昼食にする。ストーブに燃え残りの木があったので、点火して全てを燃やし切った。26日に焼却炉に入れたままだったトイレットペーパーを燃やす。倉庫からチェーンソーを出して分解掃除する。使ってから2週間以上経つので、オイルの固化が始まっている。ブレーキ周りについていた黒い塊はドライバーの先で削り落とさないとならないほど固くなっていた。ストーブの薪も燃え尽き、後片付けも終了。管理棟などの戸締めも確認して下山準備を終える。奥駈道を少し南下し最初の鉄塔までを見に行った。ヒメシヤラが一本東側に倒れていたが、道を塞いでは無かった。引っ掛かりが外れると道に倒れるだろう。後日切除したい。



ヒメシヤラの斜木

最初の鉄塔まで

若い鹿がいた

夕方から天気が崩れるという予報通り雲が増えてきた。外気温は20℃で半袖でもどうにか耐えられる。モノレール終点の手前で補給

路に鹿が2頭いた。補給路で鹿を見たのはかなり以前に一回あっただけなので新鮮だった。終点に着き飛ばされたシートを拾い集め発電機に被せて重しを置いた。モノレールのエンジンをかけて、いよいよ下りだ。心配しながら下りだが、エンジン音は変わらず。同じ調子で林道まで降りることができた。今日一回の往復でエンジンが元通りになったとは言いがたいので、なんとかフィルターを取り外して洗浄するか、新しいフィルターと交換したいと思う。エンジンオイルの缶が空になっていたので農機用のエンジンオイルを買ってきて登山口のコンテナに収納した。エンジンにオイルはまだ十分に入っている。

(記：梶野)

### 行動タイム

10:00 補給路登山口 10:44 ↓ 11:00 モノレール終点 ↓ 11:14 行仙  
宿 13:20 ↓ 13:50 モノレール終点 ↓ 14:08 補給路登山口